令和8年度 災害拠点病院医療救護要員研修会　第3部 亜急性期

福祉の力で二次被害を予防し、地域生活に“つなぐ”

令和8年熊本地震における岡山DWATの活動報告

派遣期間　令和8年8月7日～10月1日（56日間）　／　活動地域　熊本県八代市（鏡地区）

岡山DWAT（災害派遣福祉チーム）チーム員　重實 剛（しげざね介護事業コンサル）



② 活動チーム概要

DWATは、福祉の専門職チーム

DWAT＝災害派遣福祉チーム

避難所で、配慮が必要な方を見つける
生活機能の低下・災害関連死などの
二次被害を防ぐ



メンバーの所属

高齢者・障害者・児童の福祉施設職員／病院MSW／社会福祉士会・介護支援専門員協会・精神保健福祉士協会などの職能団体

令和8年熊本地震活動実績

40名
派遣人数

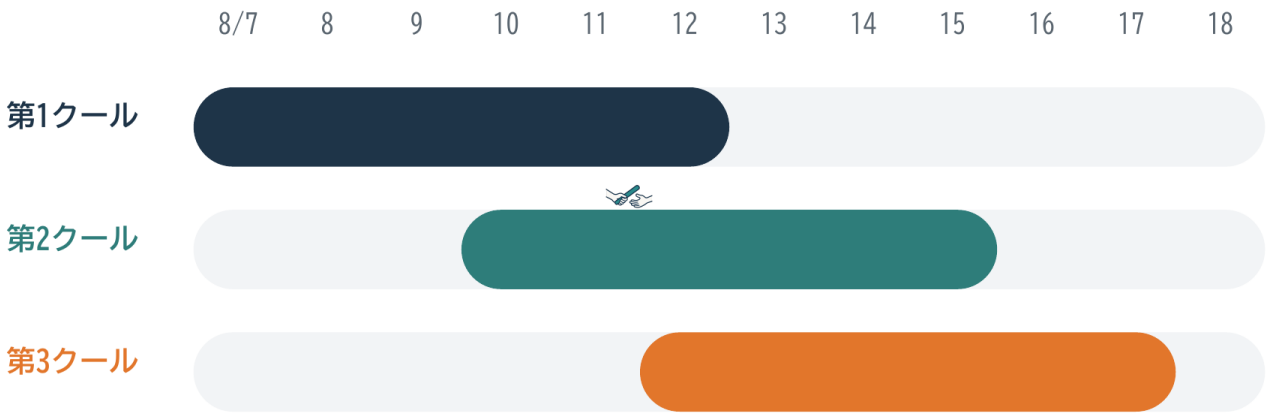
21クール
交代の回数（延べ）

2人1組
現場での動き方

56日間
8/7～10/1

③ 活動期間

56日間、21クールで切れ目なくつないだ



↑ 帯が重なる日に、現地で顔を合わせて引き継ぐ

1クール6日間・2〜3日ずらして交代 → これが第21クールまで続いた

活動期間

56日間

令和8年
8月7日 → 10月1日

7月28日発災
（発災10日後に合流）

④ 活動場所

八代市・鏡地区の避難所から、在宅へ

八代市・鏡地区





- その他、在宅の要配慮者の訪問

地図：国土地理院　施設位置：八代市・学校公式資料／Googleマップ

周辺のインフラ（8月9日時点）

水道：18避難所で不通・不具合
電気・エアコン：全避難所で稼働

市内38避難所／約2,000人が避難

出典：全社協アドバイザー武田氏資料

⑤ CSCA（C:指揮系統・情報伝達）

三層の指揮系統の、2層目から入った

派遣元　岡山県・岡山県社協（岡山DWAT事務局）　→　熊本へ派遣

第1層　県本部（熊本県災害派遣福祉本部）
県全体の方針・人の配分

第2層　拠点本部（八代・宇城・氷川）
地域の情報を集め、チームを割り振る

第3層　各チーム（熊本DWAT・応援県DWAT）
避難所・在宅で直接支援

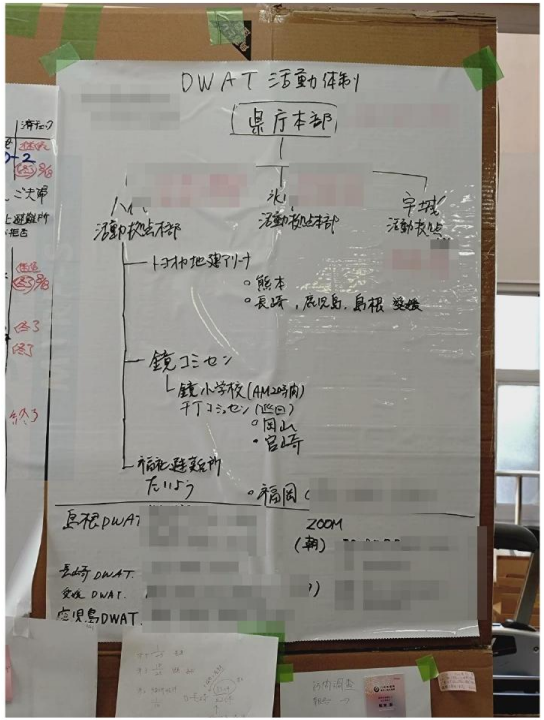
現地の報告ルート
毎日 16:30 拠点・17:00 本部の
ミーティングで報告・指示

8/7 岡山はここから
八代拠点本部の手伝い

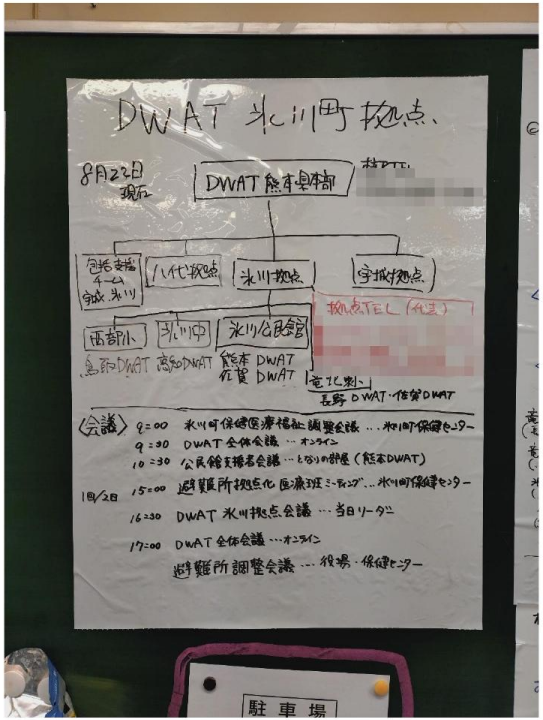
8/10～ 鏡地区で
避難所の巡回・相談

出典：熊本県DWAT本部運営マニュアル（8/2版）、中央センター資料「三層構造の支援体制」

現地に掲示されていた指揮系統（三層構造）



八代拠点：DWAT活動体制



氷川拠点：DWAT氷川町拠点（8月22日現在）

写真：全社協アドバイザー武田氏資料

⑤ CSCA（A：情報収集・評価）

情報を集め、鏡地区への支援につなげた

調査

現地で情報収集

岡山DWAT 第1クール
ラピッドアセスメント
シートで避難所を調査

入力

D24Hへ集約・共有

岡山・熊本の情報を集約
熊本DWATが取りまとめ
パソコンでD24Hへ入力

評価

情報を総合評価

避難所の状況や
支援ニーズを総合評価
DWATの配置先を判断

判断　八代市の中でも、鏡地区へのDWAT支援が必要

出典：岡山DWAT第1クール日報／発表者の振り返り　D24H：厚生労働省
岡山DWAT｜令和8年熊本地震 活動報告

仕事は「見つける」から「つなぐ」へ変わった

八代は38か所・広い市域に点在。支援が必要な場所を見つけることが重要

避難所数：八代38（8/9）／氷川5（8/9朝）／宇城12（8/7朝）　※各資料の管内・時点で比較



立ち上げ

8/7～

拠点本部の手伝い
ラピッドアセスメントシートで避難所を調査
D24Hに情報を集約
支援が必要な場所を洗い出す



避難所の中

8/10～

何でも相談の窓口
要配慮者を一人ずつ確認
地域包括へつなぐ



在宅へ

8/20～

在宅の要支援者を訪問
取り残しがないか確認
避難所の集約に対応



出口支援

9/2～10/1

住まいの意向調査
ケース会議
記録を地元へ引き継ぐ

見つける ——→ つなぐ

9/24　八代の148件すべての「渡し先」を確定

相談コーナーと血圧計（八代アリーナ）



なんでも相談コーナー



相談対応の様子

鏡コミュニティセンター



岡山DWATの拠点となった鏡コミュニティセンターの避難所

⑥ 活動内容：1日のタイムスケジュール

鏡地区の1日（8月中旬）



約21件 1日のアセスメント（平均）

3か所 毎日回った避難所

5回／日 基本の定例会議＋関係機関との随時協議

出典：DWAT共有日報 岡山DWAT分 8/13〜8/20（8日分）の平均

一番の課題は「記録と引き継ぎ」

課題を書いた隊員26人のうち

17人

が「引き継ぎ・記録・情報共有」で困った

第1～第21クールのほぼ全期間

様式なし
ノートに手書き

→

途中から
kintoneへ移行

→

二重三重
紙・デジタル
kintone

隊員の声　「プリンターは宮崎DWATのものをお借りしていた」
「人数分のスマホとパソコンは必須」

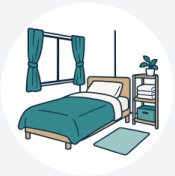
岡山に持ち帰ること

① パソコン・スマホを人数分そろえて出る
② 共有の記録様式を、平時からそろえておく

出典：岡山DWAT 熊本派遣 事後アンケート（28件、10/7時点）

⑧ 後方支援体制

岡山県社協が、56日の派遣を支えた



宿泊

マンスリーアパート
家具・タオル・清掃つき



移動

レンタカー
（コンパクトカー）



手配・相談

岡山県社会福祉協議会
（岡山DWAT事務局）

隊員の声　「岡山県社協が事務局として相談に乗ってくれる体制があり救われました」

⑨ 今回の活動での気付き（今後岡山でも準備すべきこと）

平時のうちに、つながっておく

1. **CSCA・３層構造・ラピッドアセスメント・D24Hの浸透**
   初めて、初動からCSCAを前提とした活動、福祉版ラピッドアセスメントを行った

2. **受け入れる側の準備**
   応援が来た日に、最初に何を手渡すかを決めておく

3. **顔の見える関係**
   H30真備・R6能登を経験した仲間がいて、連携がスムーズだった

DWATを知っていただき、有事の際には連携をお願いします